

20053

AMI患者について病棟、外来間での継続看護介入の取り組み

【目的】

AMI患者に対し病棟では、病識および生活習慣の改善を目的とした退院指導を行っていたが、退院後の継続した関わりまではできていなかった。そこで、再発予防、また心不全増悪による再入院のリスクを減らす目的を目的に、外来看護師が継続して退院後の生活指導を実施することを開始した。

【方法】

病棟と外来看護師が記録できるクリニカルパスを作成。平成26年5月1日より開始。入院中の患者自身による「内服管理」「血圧手帳記入状況」「体重測定」について、また患者気質について、退院時に病棟看護師が記入するコメント欄を設けた。退院後、外来診察前に看護サマリー、クリニカルパスを見ながら、外来看護師が情報を取り、指導を行った。また、外来看護師17名にパスの有用性についてアンケートも施行した。

【結果】

クリニカルパスを使用することで、患者の自己管理で具体的に何ができていないかということが一覧でわかった。継続的に記録を見ることができ、指導できた。外来看護師がフォローアップ入院まで指導に入ることで、実際、自宅での療養について情報を取ることができ、また病棟看護師へ、フィードバックすることができた。外来看護師のアンケート結果より、パスを引き続き使用して継続看護を続けていきたいという声も聞かれた。

【結論】

病棟看護師から外来看護師だけでなく、外来看護師から病棟看護師への継続看護を行うこともできたため、患者の問題点を共有することができた。入院期間が短くなっていく中で、今後も外来での看護師の指導も重要視されると思われる。